

令和 6 年度 第 1 回 長野市立博物館協議会 議事録

日 時 令和 6 年 8 月 7 日（木）午後 2 時 00 分～午後 3 時 00 分

場 所 長野市立博物館 2 階 会議室

出席委員 相澤委員・浅倉副会長・大串委員・牧委員・宮澤委員・宮下会長・山貝委員

1 開会

2 あいさつ

3 会議事項（議長 宮下会長）

（1）協議事項

（ア）博物館の使命と資料の収集及び管理の方針等について（陶山係長）

（宮下会長）信州新町美術館の特徴として「信州新町の顔」とあるが、ほかの施設と比べて異質である。「美術の専門館」としたほうが適当ではないか。

（陶山係長）そのように修正したい。

（大串委員）使命として、はじめに長野市の特徴を記載しているが、今後のことを見据えれば、自然であれば災害の歴史、人文であれば戦争や現代史まで含めた方が理念としてよいのではないか。長野市は地震や水害などの自然災害や戦争をのり越え、独特の市民文化を創り出してきたというような文章の方が適当ではないか。善光寺や川中島といった著名なところだけではない、多様な文化を創り出してきたということも言及しておくべきではないか。

（陶山係長）どこまでを博物館として取り上げるテーマとして含めるかどうか難しい問題だが、確かに足りない部分もあると思うので、今後の検討としたい。

（浅倉副会長）使命と各種方針との位置づけがよくわからなかったなので、具体的な説明をお願いしたい。

（陶山係長）使命としては広い意味で記載していて、各種方針は資料に関する具体的な方針。例えば、資料拡充方針はどういうコレクションを形成していくかということで、受入方針は手続き的なものであるが、それを分野ごとにきちんと決めていくという意味で、まだ文章にはなっていない部分がある。

（宮澤委員）「結び目博物館」という意味がわかりにくい。それよりは「総合博物館」としての位置づけのほうが優先すべきではないか。

（相澤委員）平成 28 年 11 月の協議会で「結び目博物館」という言葉が出たと記憶している。その後どうなったのか、総括や検証も必要ではないか。

（陶山係長）その際は「結び目」をキーワードとして文中に意識的に組み込んでいたが、今

回、文章を幾分修正したので「結び目」という意味がわかりにくくなっているかもしれない。

(宮下会長)「結び目博物館」という言葉が独り歩きしていくことが心配。少し違和感がある。様々なものをつなげていくという意味では「総合」ということになると思うが。

(陶山係長) 総合博物館として様々な分野を結んでいくという意味も含まれると思う。

(牧委員) ほかの博物館に比べて学術的な部分をしっかりと掘り下げていることが長野市立博物館の特徴であるように思う。

(山貝委員) キャッチコピーや親しみやすさとして「結び目博物館」という言葉が出てきたのかなと思うが。

(宮下会長) 博物館をとりまく要素としては「結ぶ」というのはいいかもしれないが、「結び目博物館」というのはどうかなという気がする。

(浅倉副会長) フォッサマグナや自然災害、善光寺や川中島のほかに長野市の特徴としては何が考えられるのか？

(宮下会長) 古来よりの修験道の拠点であり、重要伝統的建造物群保存地区で宿坊が現在でも残っている戸隠や松代藩の中心地で城下町が残る松代も含めるなど、もう少し視野を広げてもいいのではないか。

(浅倉副会長) なにが長野市の魅力なのかというのを記載するべきだと思う。

(陶山係長) 資料の拡充方針にも直結してくると思うので、そうした具体的な方針を考えながら使命もその都度アップデートしていくことになると思う。

(大串委員) 使命と各種方針の間くらいのレベルに「我々が住む長野はこういう地域です」という文章があってもいいのではないか。理念ほど抽象的ではないが、行動指針ほど実践的ではないような文章をワンクッション挟むと、相互に参照しながら整理されていくと思う。各館の特色や個性もそこに含まれると思う。

(イ) その他

意見なし

(2) 報告事項

(ア) 令和6年度 春季・夏季展示の報告と秋季以降の展示について(陶山係長)

意見なし

(イ) 博物館再登録に向けた動きについて(陶山係長)

(大串委員) スケジュールを確認したい。

(陶山係長) 令和9年度末までに再登録をするように進めていきたい。その前には使命や収集方針等を策定する必要がある。

(浅倉副会長) うまく連動しながら進めていってほしい。方針等も策定後にはぜひ公開するようをお願いしたい。

(ウ) その他

「戦後 80 年」企画についての提案 (大串委員)

(大串委員) 令和 7 年度は戦後 80 年の節目にあたる。それを機に改めて戦争と平和を地域社会の歴史の中から考える展示を検討してほしい。

(相澤委員) 地元の旧更北村では戦後の学習意欲が高く、親戚も青年通信講座でよく勉強をしたと聞いている。そういった戦後の記憶も失われつつある。地域に伝わってきたものを知る機会になればいい。博物館の資料拡充方針や公開、整理の方法なども関連する内容と思う。

(大串委員) 戦争という一面だけではなく、平和を創ろうとした 80 年でもある。そういう意味で青年団の学習活動や地域での文化活動も視野に入ってくると思う。戦争を取り上げる場合は難しい問題も含むと思うが、ぜひ検討してほしい。

(宮下会長) 世の中の動きも戦後 70 年の頃とは大きく変わっているように感じる。戸隠の出征旗の話や満蒙開拓義勇団のような地域でほとんど知られていないことを掘り起こして、記憶を記録化していくことも博物館の事業として重要なことだと思う。

(樋口主査) これまで担当した展示では扱えなかった部分を取り上げることはできるかもしれない。今後、具体的な方法を検討していきたい。

(田辺研究員) 戦時中に奥社の杉並木は切られることはなかったが、火ノ御子社の杉並木は切られていたりする。動員の様子なども地域住民に聞き取りをしているので、展示でも活用できるかもしれない。

(宮下会長) 博物館活動の大きな柱になると思うので、ぜひ議論を進めてもらいたい。